

連載・教区シノドスから恵みの年へ ③

大司教区の信徒の現状と課題

「教区シノドス」準備委員会は、2011年に「教区シノドス」アンケートを教区全世帯と修道院などに19631部配り、9101の有効調査票を得た。その後、集計したもの。分析までに時間を要したが、高見大司教の意向でアンケートの分析を下関市立大学・経済学部・叶堂隆三教授に依頼した。このたび、その分析結果が出たのを受けて、今年度設立された「教区シノドス中央委員会」が結果を公表することとした。それは、この分析結果を基にこれから長崎教区を信徒と共に考えていくためである。この分析結果を見ることで、長崎教区全体の現状と課題が幾分見えてくる。なお、アンケート分析結果の全文は700ページにも及ぶものだったので、教授の許可をいただき中央委員会の判断で重要な部分だけを掲載することにした。全文はカトリックセンター別館の教区シノドス中央委員会事務局にあるので、希望者は閲覧することができる。

はじめに

アンケートの目的および分析の概容

2014年、長崎教区代表者会議(教区シノドス)が開催される。14年の教区シノドス開催の目的は、長崎教区の歴史を踏まえて、高見大司教が司牧の根本方針とした「参加し、交わり、宣教する教会づくり」を念頭に置いて、将来の長崎教区をどのように築いていくのかを教区の信徒と共に考えることである。

教区シノドスに先立つて実施された「長崎教区代表者会議(教区シノドス)」におけるアンケート(以下、アンケート)は、目的の一つとして、教区シノドスの開催を前に信徒一人一人が長崎教区の現状について考え、小教区単位の分かち合いに参加するための各信徒のいわば覚書の役割と小教区単位の基礎資料のために企画されたものである。さらに、アンケートを実施した重要な目的がある。それは、アンケートに回答した信徒の一人一人の現状認識と今後の方向性を小教区・地区レベルで集約し、教区シノドスに信徒の声を反映することである。アンケート結果を教区シノドスの基礎資料に生かすために、準備委員会は各教会から返送された小教区単位の集計と膨大な数のアンケートの回答を整理・分析した。また、①各小教区などからのアンケートの回答と小教区による集計を長崎中地区・長崎南地区・長崎北地区・佐世保地区・平戸地区・上五島地区・下五島地区の7地区および修女連に区分してデータベース化し、さらに教会による集計を統計的に点検・確認する作業を経て、アンケートの回答と小教区

と修道院などに19631部配り、9101の有効調査票を得た。その後、集計したもの。分析までに時間を要したが、高見大司教の意向でアンケートの分析を下関市立大学・経済学部・叶堂隆三教授に依頼した。このたび、その分析結果が出たのを受けて、今年度設立された「教区シノドス中央委員会」が結果を公表することとした。それは、この分析結果を基にこれから長崎教区を信徒と共に考えていくためである。この分析結果を見ることで、長崎教区全体の現状と課題が幾分見えてくる。なお、アンケート分析結果の全文は700ページにも及ぶものだったので、教授の許可をいただき中央委員会の判断で重要な部分だけを掲載することにした。全文はカトリックセンター別館の教区シノドス中央委員会事務局にあるので、希望者は閲覧することができる。

(教区シノドス中央委員会)

I 信徒の現状

(1) ミサ・小教区に参加する信徒の現状

アンケートの回答者を大司教区の信徒のミサ・小教区に参加している信徒の性別は、男性約1対女性約2で、女性を中心である。

次に、ミサ・小教区に参加している信徒の年齢は、50~70代が3分の2弱を占めている。その一方、20代は50分の1、30代は20分の1弱にとどまっている。

また、ミサ・小教区に参加している信徒(20歳以上)は既婚者が9割弱である。さらに既婚者の配偶者(夫・妻)の宗教に関して、離島地域などは、信徒間の婚姻率が相対的に高く、一方、都市地域で信徒間の婚姻率が低くなっている。また、年齢別の配偶者の宗教に関して、世代が若くなるにつれてカトリック以外の宗教の配偶者との結婚の比率が高まる傾向が見られる。

また、(2)9000を超える有効回答の中から、約1000のサンプルを無作為抽出法による抽出作業を行った。この作業の目的是、アンケートの家庭・小教区・大司教区の他の各質問のそれぞれの回答に対する性別・年齢別の内訳や質問間の関係を分析することで、男女の別や世代によって信仰や信仰共同体に対する思いや活動にどういふ違いが生まれるのか、大司教区や小教区の現状に対する一人一人の信徒の認識の違いによって、大司教区の今後の方策の評価にどう違いが生まれるのか、を明らかにすることである。

さらに、(3)小教区ごとにデータベース化した信徒の現状認識や思いを主題別に区分する作業を実施した。今回のアンケートの回答の特徴は、信徒一人一人が自由回答や意見の欄に各自の思いや経験をびつりと記載していることである。一般的のアンケート調査では、まれに、信徒一人一人の思いをつづった自由回答を可能な限り取り上げる作業を通して、家庭・小教区・大司教区の他の各質問に対する4択の回答の信徒の内実つまり思いや経験などの信徒を取り巻く状況が明らかになっていく。これらの①~③の作業を通して、一人一人の信徒の各質問に対する4択の回答の内容は、教区全体および7地区別・性別・世代別に集約化することができた。こうしたこと

議論で大いに活用されるよう望まれる。

という回答の順位を示せば、1位「小教区のミサ参加」、2位「小教区への金銭的協力」、3位「行事・委員会への参加」の順である。多くの信徒が参加する自分の小教区の維持に関して、金銭的協力と行事や委員会への参加の比率は大きく相違している。

大司教区に関する質問で、努めているなどの回答の順位を示せば、大司教区全体は、1位「神学生数の減少の不安」、2位「司祭の高齢化に不安」、3位「大司教の社会的発言に关心」、4位「カテキスマ養成の必要性」、5位「聖体授与の臨時の奉仕者の養成の必要性」、6位「大司教区の行事・運営に关心」、7位「小教区の統廃合の必要性」の順である。すなはち、大司教区の現状(神学生数の減少・司祭の高齢化)に関する項目が1位・2位を占め、信徒にとってカトリック以外の宗教の配偶者との結婚の比率が高まる傾向が見られる。

大司教区の運営・運動(行事・運営に关心、大司教の社会的発言に关心)のうち大司教

の社会的発言に关心が3位を占めている。

一方、今後の方策(小教区の統廃合の必要性・カテキスマ養成の必要性・聖体授与の

性・カトリックの運営に关心)のうち大司教

の社会的発言に关心が3位を占めている。

一方、今後の方策(小教区の統廃合の必

要性・カテキスマ養成の必要性・聖体授与の

性・カトリックの運営に关心)のうち大司教

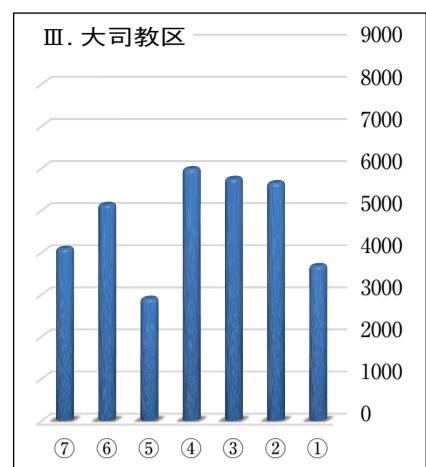
の

しかし、共に正しい二つの思いが、長崎大司教区の信徒の間にジレンマ（家の信仰の維持と個人の尊重）を生じさせている。例えば、主日のミサに家族で参加したいという思いを強く抱いているものの、子どもがミサや要理教育よりも部活などの学校行事・学業の優先、信仰のウエイトが小さい生き方を望むならば、その子どもの思いや

クは代々伝わる、いわば「家」の宗教と認識している。一般に、「家」は一つの単位として、また個別の家族員の生死を越えて存続するものと捉えられている。信徒の宗教観も「家」と同様に、家族が「家」の二員として信仰と行い（宗教行動）を同じくし、それが次代につながることを望んでいる。こうした思いは、多くの信徒がアンケートの自由回答で信仰の継承の思いをつづっている通りである。その一方で、多くの信徒が家族（とりわけ子ども）に対しても、家族は自分の意思と行動の自由を有する「個人」として尊重すべき存在という思いを強く抱いていることも自由回答で数多くつづられている。

アンケートの分析を通して、長崎大司教区のミサ・小教区に参加している信徒の家庭生活・小教区の維持・大司教区への関心の状況が明らかになった。さらに、信徒の回答状況や自由回答から長崎大司教区および信徒が直面する問題・ジレンマを析出し、長崎大司教区の解決すべき課題として提示したい。

Ⅱ 大司教区の課題



年齢	人数
⑦	~3800
⑥	~5500
⑤	~3500
④	~6500
③	~6200
②	~6000
①	~3800

(2) 参加信徒の少子・高齢化状況

・若い世代の問題

委員活動を妻が支えていく夫婦（家族）単位の活動・役であつたといえる。もし、信仰の「個」化が広がっていくならば、従来の小教区を支える家族単位の方式が機能しないくなる恐れもある。

今日の信仰の「個」化の趨勢は、例えば一人暮らしの高齢信徒の増加のように時代・社会状況下で押しとどめることが困難であり、むしろ、そうした状況にどう対応するかを考えていかなければならぬ一面ともに、信仰を基盤にした家族づくりをどう

その結果、小教区を維持する金銭的・人

崎大司教区の信徒

長崎大司教区の信徒を特徴付けてきた「家」の信仰としてのカトリックは、家族を単位として小教区に参加することで、小教区の維持に大きな役割を果たしてきた。しかし、信仰の「個」化の広がりとともに、小教区と信徒の間の結び付きが弱くなってきた。また、家族単位を前提とした小教区と信徒の関係に対応しきれない信徒が増加している。

その結果、小教区を維持する金銭的・人的な務め（維持費などの金銭的協力）と「行事や委員会などへの参加」に関して、さまざまな思いや状況の信徒の比率が増加する傾向にある。例えば、多くの信徒が厳しい小教区の財政状況を認識し金銭的な務めを果たしているものの、一人暮らしの高齢者徒あるいは経済的に厳しい状況にある信徒らを含めて、「均等割り」の方式や他の小教区の維持費の額と比較して維持費の額に負担を感じる層も多くなっている。

う再構築していくかを家族・小教区・大司教区で考えていかなければならない一面もある。こうした状況をどのように受け止め、どのように取り組んでいくのかは、信徒に課せられた大きな課題の一つといえよう。

(2) 参加信徒の少子・高齢化状況

・若い世代の問題

アンケートの回答者を大司教区の信徒のミサ参加・小教区への参加の指標にすればミサ・小教区への参加は高齢者が大多数を占め、若い世代はわずかである。また、家庭生活に関する質問・小教区に関する質問・大司教区に関する質問で、年齢の上昇とともに努めている・関心があるという比率が高まる傾向の項目が明らかである。

・高齢者の信仰生活の維持

とはいへ、大司教

一方、仕事を通して社会に対する責任を果たしていると一定数の信徒が回答している。一般的な社会的通念や学校教育におけるキャリア教育などの結果、仕事を経済的基盤にとどまらず主要な生活領域に位置付けられている。

こうした現実に生きる現役世代の多くの信徒が、信仰を大切にする生き方と重要な生活領域に職業を位置付ける生き方の二極性（信仰の普遍性・生活の普遍性）の間のいずれの地点に自分の信仰・職業生活を定置

高齢者夫婦世帯と世帯状況をつづる信徒が数多い上、さらに身体機能の低下のためにミサ・小教区に参加できない高齢の信徒が多くいると想定される。高齢者を取り巻くこうした状況は、信仰と身体の間のジレンマ（信仰の高まりと身体機能の低下）として捉えることができる。

一例を挙げれば、聖体授与の臨時の奉仕者の養成に賛成する理由として、相当数の信徒が病人や高齢者への聖体奉仕を挙げているように、ミサ・小教区に参加しにくいう状況にある高齢信徒に対して何らかの対応を求める信徒が多いように思える。そのため、小教区および信徒組織として、どのような対応が可能であるかについて議論する必要がある。

(3) 信仰と職業のミスマッチ

置く極なものには育いを

必ずしも心地よい住まいには、

(一) 信仰の及ぼす力

スマッチについて信徒が分かち合い、各自が置かれた生活状況の中で、ミサ・小教区への参加と職業生活をどう折り合いをつけるのか、言い換えれば信仰を持続していくためにどう生活を設計していくべきかを考える時間が求められている。同時に教区・大司教区も所属する信徒の生活状況に対応した行事・活動の日程を検討することが求められている。

(5) 長崎大司教区の今後

(5) 長崎方言教団の全貌

しようかと苦慮し、時として、悩み苦しんでいる状況を自由回答につづっている。もつとも、信仰と職業生活の両立は、信徒が一人一人折り合いをつけていくべきものであるが、小教区の中には参加率を高めたい実際的な理由から、委員会や清掃などの開催曜日・時間を工夫しているところも散見される。

とはいっても、大司教区内でも、都市地区と離島地区などで信仰と職業をめぐる状況に違ひがあり、また、信徒一人一人の信仰と職業生活の両立の苦労、悩みは人さまざまである。さらに、職業生活以外にも家族の介護などに従事して、ミサ・小教区に参加しにくく言ふことが多い。

しかし、信仰の影響力が及びにくい教会参 加の延長的な活動は、多くの信徒がその理念を受け入れるだけでなく、活動への信徒の参加につなげていくためには、さらに周知・議論の場や時間が求められよう。

「一粒の麦が地に落ちて」

福者カミロ・コンスタンツオ殉教祭

説教の中で大司教は、自身の信仰を見直し、最後まで神をたたえて死んだカミロ・コンスタンツオ神父の強く深い信仰に倣い、信仰を遺産として、生活の中で多くの人、特に後の世代に伝えていきましょう」と説いた。



9月15日、平戸ザビエル記念聖堂を対岸に望む焼罪史跡公園で、福者カミロ・コンスタンツオ殉教祭が行われた。

カトリックセンター紹介② 教区本部事務局

カトリックセンター(長崎市上野町)に所在を置く各部署について紹介するシリーズ。前回の法人事務所紹介に続く2回目は、センター2階にある教区本部事務局。

教区本部事務局は、カトリックセンターの2階の一室にあり、現在10名のスタッフが勤務しています。

教区評議会の組織改革に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰養成部長として山川忠師が信仰養成(子どもから大人に至るまで)を担当され、その秘書としてマリア修道会のお告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カトリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

ら大人に至るまで)を担

当され、その秘書として

お告げのマリア修道会の一師が担当され、その秘

教区本部事務局は、カ

トリックセンター紹介②
教区本部事務局

教区評議会の組織改革

に伴い、家庭特別委員会を基礎として3つの部が設けられています。信仰

養成部長として山川忠

師が信仰養成(子どもか

